



地域連携相談室だより（第2号）

医療法人みやうち廿日市野村病院 地域連携相談室



地域連携相談室メンバー

「つながりの中で支える医療」

医療は病院の中だけで完結するものではなく、地域の医療機関や介護施設、行政との連携によって支えられています。

当院の地域連携相談室は、患者様やご家族様の思いに寄り添いながら、必要な支援へとつなぐ“窓口”としての役割を担っています。「どこに相談したらよいかわからない」そんな時に、まず思い出していただける存在でありたいと考えています。

また、認知症カフェや健康講座などを通じて、地域の皆さまと顔の見える関係を大切にしております。

これからも地域の中で支え合いながら、安心して過ごせる環境づくりに努めてまいります。

廿日市野村病院院長 好川基大

医療法人みやうちの地域連携相談室には、廿日市野村病院の医療ソーシャルワーカー5名と、介護老人保健施設ひまわりの支援相談員3名が在籍しております。8名全員が社会福祉士の資格を有しており、そのうち5名は精神保健福祉士の資格も取得しています。8名で細やかに情報共有を行いながら、入退院支援や医療福祉相談に対応し、患者様・ご家族様が安心して療養生活を送れるよう支援しています。

例年、6月、7月は病床に比較的余裕があり、転院のご依頼にもお応えしやすい状況です。ご紹介から入院まで、可能な限り迅速に受け入れ調整を行っております。急性期治療後の転院相談やレスパイト目的の入院など、お困りのことがございましたら、まずはお気軽に地域連携相談室までお問い合わせください。

相談窓口：地域連携相談室直通 TEL 0829-30-2225

廿日市野村病院検査室のご紹介

当院の検査室では、日々の診療を支える各種検査に加え、健康診断にも力を入れています。血液検査や尿検査などの基本項目はもちろん、生活習慣病の早期発見・予防につながる検査を通じて、地域の皆さまの健康づくりをサポートしています。健康診断は「病気を見つける」だけでなく、「これからの健康を守る」大切な機会です。検査室では、正確で迅速な結果提供はもとより、安心して受診していただけるよう丁寧な対応を心がけています。また、検査結果は医師や多職種と連携し、必要に応じて生活改善や治療につなげています。地域の皆さまが安心して暮らせるよう、これからも予防医療の充実に取り組んでまいります。



当院の検査室には、4名の女性臨床検査技師が在籍しています。全員が国家資格である臨床検査技師を有し、そのうち2名は超音波検査技師の資格も取得するなど、高い専門性を備えています。

健康診断実績推移



健康診断受診者数は、2019年の1,285件から2025年には2,165件へと大きく増加しています。地域の皆さまの健康づくりへの関心の高まりに応えるとともに、当院としても受診しやすい体制づくりと予防医療の啓発に継続して取り組んできた成果といえます。

当院の退院支援

患者様が可能な限り住み慣れた地域やご自宅へ戻れるよう支援しています。

当院では、患者さまが退院後も安心して生活できるよう、多職種が連携しながら退院支援を行っています。

医師・看護師・リハビリスタッフ・管理栄養士・薬剤師・地域連携相談室などが協力し、患者さまやご家族の思いを大切にしながら支援を進めています。

必要に応じて、退院前カンファレンスや退院前訪問を実施し、ご自宅の環境や生活動線、入浴や移動の安全性などを確認しています。また、介護サービスや福祉制度の調整、地域の医療機関・介護事業所との連携も行い、切れ目のない支援につなげています。

「自宅で過ごしたい」「安心して生活が続けたい」という思いに寄り添いながら、患者さま一人ひとりに合った退院支援に努めています。



当院の定期カンファレンスでは医師・看護師・リハビリスタッフ・栄養士・薬剤師・地域連携相談室などが集まり、患者さまの病状や現在の状況、退院後に必要となる支援についてそれぞれの専門性を活かした話し合いをしています。

退院後の暮らしを一緒に考えます。

退院前訪問



訪問前に注意すべき点についても確認します。



浴室やトイレに手すりが必要か、段差で転倒の危険はないか、ベッドやリビングで安全に過ごせるかなどを確認します。

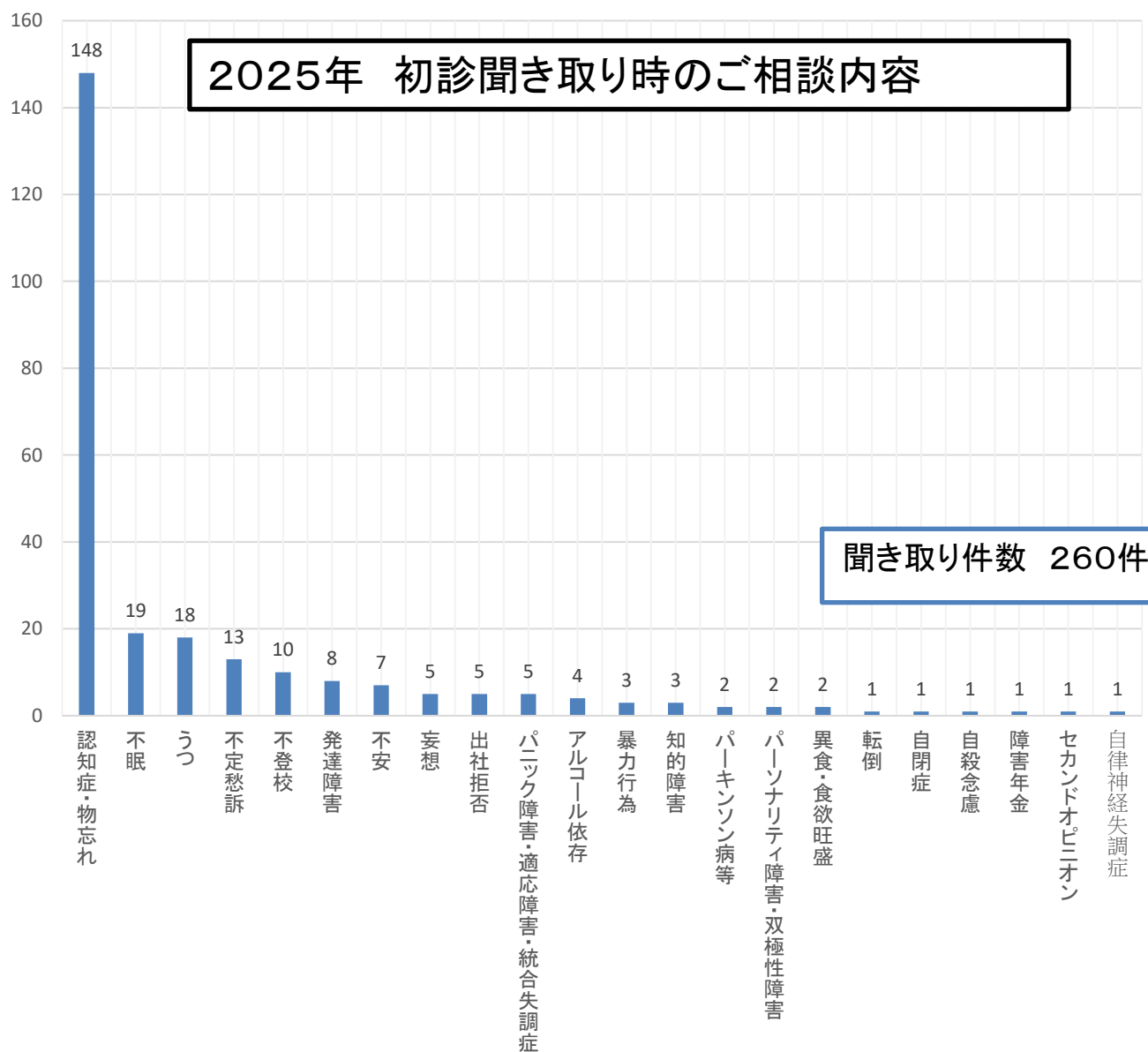
「退院前に患者様の自宅を訪問することで、より適切な退院調整・退院後の生活を円滑に送ることができる」ことを目的としています。

① 退院前に患者様の生活環境を知ること、在宅療養(処置やケア)を継続しながら患者様らしい生活ができるように環境調整やサービス内容を検討・提案していきます。② 看護師・リハビリ職員・相談員が訪問し、退院後の生活を見据えた指導をすることで患者様とご家族様の在宅療養に対する不安の軽減を図ります。③ 早期に介入することで、適切な退院の時期に円滑に自宅退院できるよう調整していきます。

廿日市野村病院の精神科初診について

当院の精神科・心療内科・神経内科では、医師が必要と判断した場合、初診前に地域連携相談室の相談員が聞き取りを行っています。患者様やご家族様から、現在の症状や生活状況、これまでの経過、ご不安なことなどを丁寧にお伺いし、安心して受診につながるよう支援しています。

事前に情報を整理することで、診察がより円滑になり、患者様一人ひとりの状況に応じた支援や医療につなげやすくなります。また、必要に応じて介護サービスや地域資源についての相談にも対応し、多職種で連携しながら継続的な支援を行っています。



最も多かった相談内容は「認知症・物忘れ」に関するもので、全体の中でも大きな割合を占めました。次いで、「不眠」「うつ」「不登校」「不安」など、こころや生活に関わる幅広い相談が寄せられています。

また、発達障害や妄想、アルコール依存、知的障害など、多様な悩みにも対応しており、患者さま一人ひとりの状況に合わせて診療や支援につなげています。なお未成年の発達障害相談については、当グループ内のはつかいちこども心身発達クリニック受診をご案内しております。

地域連携相談室では、受診前の不安を少しでも和らげられるよう、今後も安心して相談できる窓口づくりに努めてまいります。

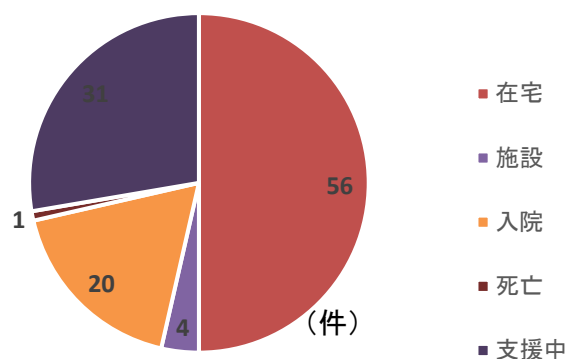
認知症初期集中支援チーム 活動状況

廿日市野村病院では、廿日市市から委託を受け、2016年10月より「**認知症初期集中支援チーム**」の一員として活動しています。

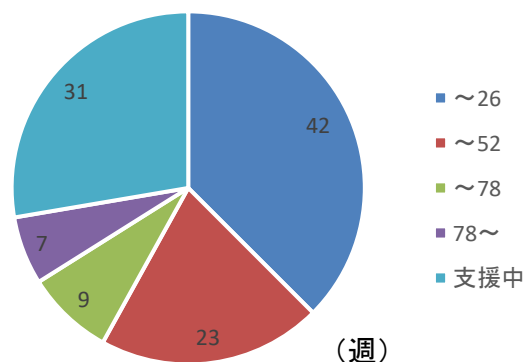
認知症初期集中支援チームでは、認知症の早期発見・早期支援を目的に、ご本人やご家族への訪問支援を行っています。支援を通じて、医療機関の受診や介護サービスの利用につながるケースも多く、在宅生活の継続を支える役割を担っています。「受診を拒否していた方が医療につながった」「介護サービスの導入によりご家族の負担軽減につながった」「地域の見守り体制が整い、自宅での生活継続が可能となった」など、多くの支援成果がみられています。

また、必要に応じて地域包括支援センターや介護事業所、行政機関と連携し、ご本人の状態に応じた支援体制を整えています。今後も、認知症になっても住み慣れた地域で暮らし続けられるよう、多職種で支援を行ってまいります。

2023年4月～2026年3月
支援合計112件 支援結果



支援終了までの期間



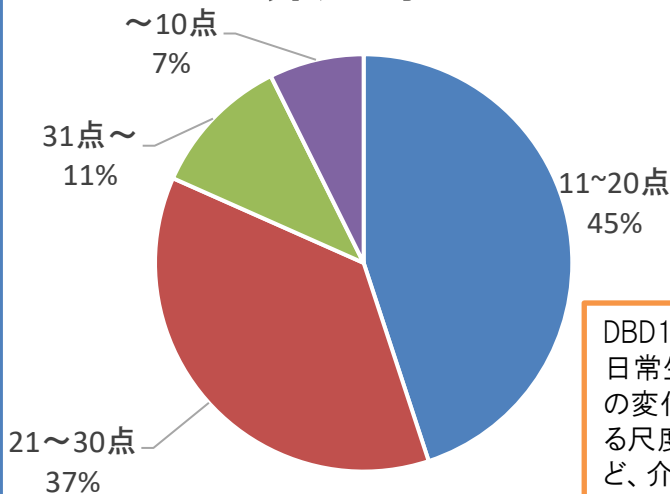
支援結果では、在宅生活を継続できているケースが55件と最も多く、多くの方が地域での暮らしを続けることができます。

医療機関や介護事業所、地域包括支援センターなどと連携しながら、ご本人の状態やご家族の状況に応じた支援を行っています。

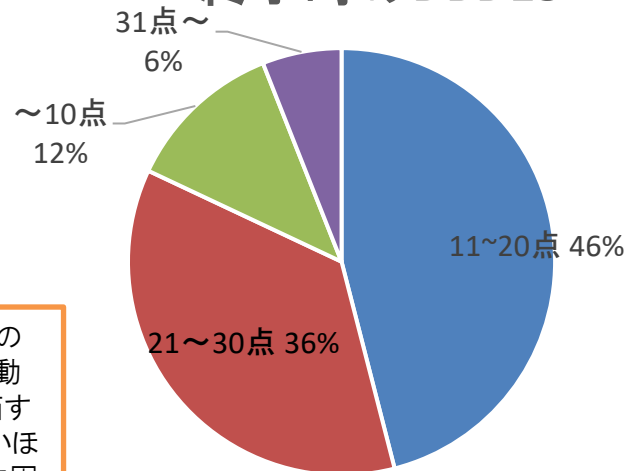
また、必要に応じて施設入所、入院など、その方に合った支援につなげています。現在も31件の継続支援を行っており、安心して生活できる環境づくりに取り組んでいます。

認知症初期集中支援チーム 活動状況

介入時のDBD13



終了時のDBD13

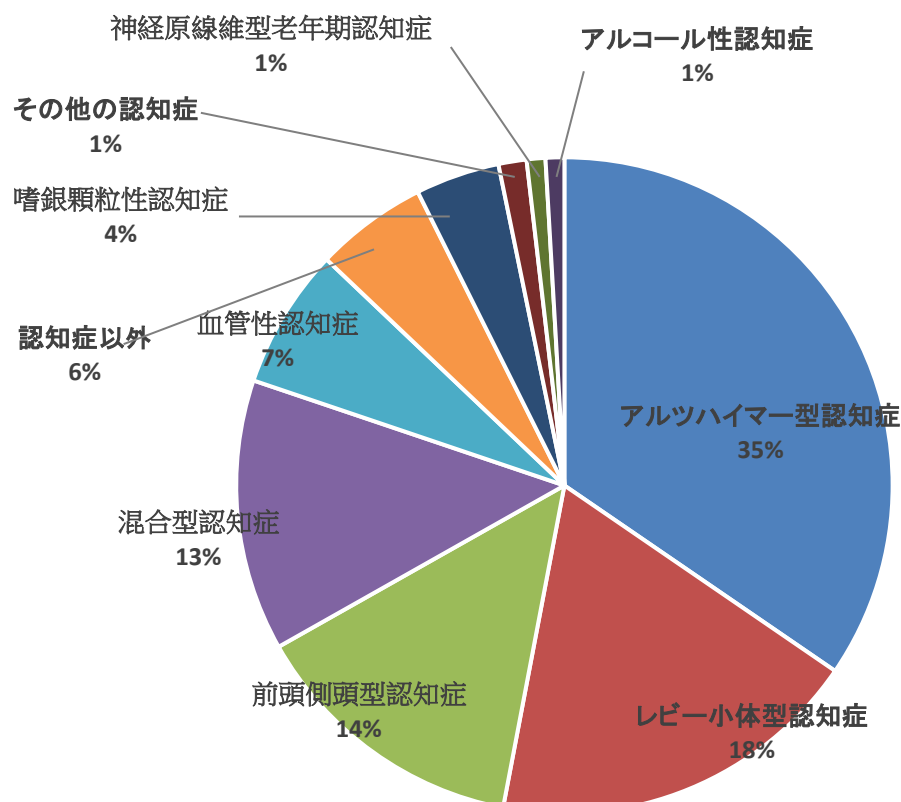


DBD13とは認知症の方の日常生活でみられる行動の変化を13項目で評価する尺度です。点数が高いほど、介護する方が対応に困りやすい行動が多いことを示します。

平均値18.9点 介入時との差異 -1.3点

認知症初期集中支援チームでは、支援開始時と終了時でDBD13を比較することで、ご本人やご家族への支援がどのような変化につながったかを確認しています。認知症の行動・心理症状(BPSD)の軽減が確認され生活の継続支援にも結び付いています。

認知症関連疾患の診断別割合



一般的に多いとされるアルツハイマー型認知症に加え、レビー小体型認知症や前頭側頭型認知症など、多様な症状や特徴を持つ認知症への支援が必要となっていることが分かります。

症状によっては、物忘れだけでなく、幻視やパーキンソン症状、性格変化、行動面の変化などがみられる場合もあり、ご本人だけでなくご家族への支援も重要となります。また、「認知症以外」が6%あることから、認知症が疑われても、実際には別の病気や体調変化が背景にあるケースもみられました。早期の相談や専門職による評価の大切さがうかがえます。

2026年4月の子ども食堂「ナナラ食堂プラス」



地域の皆さまに支えられながら、「ナナラ食堂プラス」は4月で2周年を迎えました。2周年記念日は172名の方にご利用頂きました。子どもから高齢者まで幅広い世代が集い、食事や会話を通して交流できる場所として、少しずつ地域に根付いてきています。現在は無料塾や空手道場等も同時に行っております。

運営には、医療法人みやうちの職員・元職員や地域住民の方々をはじめ、多くのボランティアが関わっています。また関係機関の協力も多数いただき、温かい支えの輪が広がっています。地域の皆さまから寄せられる食材やご寄付は活動の大きな力となっています。

これからも子どもたちに限らず、色々な世代の方が「ほっとできる居場所」として、人と人とのつながりを大切にしながら、地域に開かれた子ども食堂づくりを続けてまいります。5月は廿日市野村病院の健康フェアに出店し、焼きそばやおにぎりを地域の方に楽しんでいただきました。また次号でご紹介させていただきます。



2周年記念のメニューは第1回の時と同じ「ハンバーグカレー」にしました。

食事だけで帰るお子さんもいますが、絵を描いたり無料塾で勉強したりゲームを楽しんだり、16時頃まで自由に過ごします。



- ・ハローズ宮内店様
 - ・かきのき村様
 - ・ナタリーデンタルクリニック様
 - ・渡辺歯科様
- 他にもたくさんの企業様・個人様からご寄付いただいております。



2026年4月の認知症カフェ「n-cafeひまわり」の様子

第46回目となった4月のn-cafeは、会場が満員になるほど多くの方にご参加いただきました。今回は、フルートとピアノの演奏が行われ、やさしい音色に包まれた会場では、皆さんが耳を傾けながら穏やかな時間を過ごされました。また、専門職による体操や配食サービスについての説明があったりと参加者の皆様には充実した時間を過ごしていただきました。スタッフは当グループ職員とボランティアさん(大学生など)で行っております。



お二人は、第1回目にもご出演いただきました。親子でともにヤマハ音楽教室の講師として活動されており、息の合った演奏を披露してくださいました。



専門職による講義と体操を皆様いつも楽しみにされているそうです。今回は地域包括支援センターはつかいち中部より配食サービスについての説明とリハビリ職員指導の体操を行いました。

